

## 8 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は丸太生産が市況好転から回復。入荷・集荷は戻り梅雨の影響で減少。スギ柱材・ヒノキ土台取り等に引き合いが出、荷動きが実感できるようになった。製材工場の多くは比較的丸太在庫少なく、一部で手当の動きも出ている。価格は極端に値が下がっていた 3m 柱材等の構造材は、底値を脱し反発に転じている。スギ・ヒノキ柱材は急速に値戻しし、中目材は、スギが強保合、ヒノキは入荷少なく強含みとなっている。原発事故による牛の敷料・堆肥への樹皮の譲渡自粛で樹皮が滞留し、製材施設等の操業への影響が心配。群馬は、スギ原木価格が続落し、地場の買い気薄い。樹皮の移動停止は若干問題を起こしたが沈静化。全体的に仕事薄い、ビルダー関連など忙しい所もある模様。

### 2. 米材

6 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 14.6% 増の年率 62.9 万戸。米国丸太は 5 月から落ち込んでいた中国の買いが底打ち、反転の気配。価格は弱保合。カナダ丸太はセカンドグロス弱保合、オールドグロス品薄から強含み。7 月の産地港頭在庫は約 6,800 万スクリブナー(約 31 万 m<sup>3</sup>)。また、ウェアハウザー社の 8 月積み米マツ IS ソートはまだ決まっていない模様。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫も横這い。大型港湾製材工場は 7 月の荷動き回復し、前月を上回った模様。内陸部製材工場の荷動きには回復の兆しが見られない。製材品の 7 月入荷状況は 6 月の反発で減少。出荷は鈍化傾向で TLT(東京木材埠頭) は 20~30% 減。在庫は前月比 10% 増加し、TLT の満杯状態は変わらず。カナダ産地情勢は丸太出材量の減少と中国向け丸太出荷拡大など丸太価格の上昇に伴い、また、急激な円高も影響し、各シッパーは日本向け製材品、特にツガ製品を主体に値上げの姿勢を示している。8 月に入り一部にファイアクロジャリーが発生し伐採規制の懸念。

### 3. 南洋材

サバは天気落ち着いてきている。サラワクに比べ伐採規制厳しく出材状況は順調ではない。相変わらず製材用丸太が不足し強含み、合板用丸太はサラワクほどの下げではないがやや弱含み。サラワクは、天気は乾季の様相で、一部河川で水位下がり丸太輸送に支障を来し

始めているが、おおむね順調。消費国及び国内合板工場からの丸太の引き合いがかなり落ちており堅木、メランティ太材は別として価格はかなり下落。PNG・ソロモンは、引続き天候不順で安値丸太を探している消費国からの引き合い相変わらず多く、価格はやや強含み。丸太入荷はやや減少、出荷は横這い、丸太在庫はやや減少。製材品入荷は横這い。原木の販売は、合板用は低迷、製材用は変わらず。製材品の販売は、平割り、棒材とも入荷不足気味で荷動き良いが、現地価格が急騰し、その分転嫁できなければ採算は厳しい。

#### 4. 北洋材

ロシア極東は6月からアムール材出しが開始。日本向けは製材用エゾ丸太が数杯配船されたが合板用カラマツ丸太は国内合板メーカーの米材丸太へのシフトが一層進んだこともあって配船極めて少なく、前年同期の10分の1程度に落ち込んでいる。ロシア側も中国内陸向けバージ船出しが好調で投げ売りする可能性低い。シベリア地方は慢性的に供給不足が続き、高値張り付きとなっているがエゾマツと異なり欧州製材品等との競合少なく、国内外問わず根強い人気。富山港・富山新港の7月丸太入荷は、13,109 m<sup>3</sup>(カラマツ 1,324 m<sup>3</sup>、アカマツ 4,706 m<sup>3</sup>、エゾマツ 7,079 m<sup>3</sup>)と先月比48%減。製品は6,815 m<sup>3</sup>で先月比37%減。港入荷量は大きく減少したが製品の売れ行き悪く、出荷は低調。在庫は3~4ヶ月。価格はアカマツ丸太は横這いでエゾマツは値下がり。製材品は動き悪く弱含み。国内製材工場は、アカマツ、エゾマツの原木、原板とも不採算。稼働状況は採算合わず生産調整が続く。

#### 5. 合板

合板用国産材丸太は、西日本中心に全般的に弱含みの展開で各メーカーとも原木在庫は潤沢な様子。外材丸太も引続き弱基調な状態続き、手当は当用買いに変化ない。6月の国内の合板生産量は19.8万m<sup>3</sup>(対前年同月比83%)で、うち針葉樹合板は17.3万m<sup>3</sup>(同比83%)と震災後では最高となった。出荷量は17万m<sup>3</sup>(同88%)と3月以来3ヶ月ぶりに生産を下回り、在庫は8.1万m<sup>3</sup>と前月比微増だが未だ低水準。販売価格は、国産南洋材合板は輸入合板が軟調なこともあって荷動き低調で苦戦が続いている。針葉樹合板はメーカー側は横這いで価格提示を続けているが、西日本から徐々に荷余り品目も見受けられ、品目によって流通の再販価格が軟調傾向。今後、被災メーカーが復旧してくることから、需給バランスへの懸念も出ており、市場のムードは変じ始めている。価格は保合。輸入合板は、川上の在庫多く価格は12mm厚物を中心に下落が顕著。市場では様子見の姿勢強く買い控えが続き荷動き低調。6月の輸入量は38.3万m<sup>3</sup>と前月に次ぎ今年2番目に多い入荷量。1~6月の月平均入荷量は33.2万m<sup>3</sup>(対前年同期比128%)と、昨年と需要動向がそれほど変化ない中、多めの入荷が続いているが、8月以降は減少する見通しのため調整できるかがポイント。国産、輸入合板とも直近での荷動きに大きな変化はなく、市場での当用買いにより落ち着いた状態が続く見通し。需要動向は秋口にかけて明るい話も聞こえており、盆明け以降の需要に期待が高まっている。

## 6. 構造用集成材

現地夏休みの影響で出港が遅れると予想されていたが、日本サイドに在庫が非常に多く、逆に日本サイドから船積みを遅らせるよう指示が出ている状況。国産集成材の受注は、やや良くなり在庫も微減。価格は第3四半期の交渉が始まったが、現地からの明確な価格提示はない。日本マーケットの様子を伺っている状況。円高の影響も加味して、秋需をどう読んで数量を確保できるかが重要。7月エコポイント終了、フラット35Sの9月打ちきりなど、駆け込み需要が見られる。大手ビルダー主体に忙しく、小手は厳しい情勢。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキとも動きが悪い。製品単価もグリーン、KDいずれも弱含み。外材はWW柱、間柱も製品在庫の多さから荷動き価格共に弱さが目立つ。造作材は、国産材ではリフォーム用のスギ、ヒノキの板割等、役物に小動き有り。外材では、これまで順調だったスプルース、ピーラー良材に動きの陰りが出てきた。買方の手持ち仕事の少なさを指摘する声強い。仕入れ意欲が低く、当用買いに終始している。盆明以降の秋需も期待薄の感が強い。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角KD変わらず。ロシアアカマツ弱保合。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに弱保合。品薄な品目は無い。プレカット工場は、ビルダー関係の仕事ではかなり忙しく動いているが、町場の仕事は少ない。工務店は7月中旬から見積りが来るようになったが、実需が伴わず、実現にはもうしばらく辛抱が必要。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)